

令和6年度 第4回 千代田区九段中等教育学校入学等あり方検討会 会議録

日時 令和7年1月20日 午後2時00分～午後2時50分

場所 第2委員会室

【出席者】〔委員長〕大森委員（教育担当部長）

〔副委員長〕野中委員（東京学芸大学特別教授）

〔委員〕池戸委員（東京都立白鷗高校附属中学校校長）

盛谷委員（区立中学校長会会長、神田一橋中学校校長）

難波委員（区立小学校長会会長、九段小学校校長）

野村委員（九段中等教育学校校長）

金子委員（九段中等教育学校副校長）

上原委員（指導課長）

清水委員（学務課長）

〔事務局〕石川学務係主事、山野井学務係主事

松井九段中等教育学校経営企画室管理係長、コンサルタント1名

【次第】

- 1 開会
- 2 第3回検討会議事要旨の確認
- 3 教育に関する各種ビジョンにおける方向性の確認
- 4 特別枠の形態と検討事項の確認
- 5 九段中等教育学校と千代田区が有する教育資源の確認
- 6 これまでの検討を踏まえた特別枠案について
- 7 閉会

1 開会

大森委員長 これまでの議論を確認し、他校で導入されている特別枠を参考に、事務局から説明していただく。次第2にうつりたい。

2 第3回検討会議事要旨の確認

事務局 （資料1を説明）

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。

（特になし）

次第3にうつりたい。

3 教育に関する各種ビジョンにおける方向性の確認

事務局 （資料2を説明）

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。
 これは、色々なビジョンを資料にまとめた方が見やすいということか。

事務局 前回の検討会でご意見をいただいたので作成した。

野村委員 千代田区教育ビジョンの4番に「予測困難な未来を切り拓くことのできる人材の育成」とある。これは、今取り組んでいる九段探究プランに関わるもの。このあたりも大きく関わってくると思う。

大森委員長 九段中等が育てたい生徒像である「自らの意思と責任に判断しようとする生徒」というのは、九段探究プランから育てていくイメージか。

野村委員 そういう人材を育成していくというところから派生して、その具体的なものとして、九段探究プランがある。

大森委員長 その他、ご意見はあるか。
 (特になし)
 次第4にうつりたい。

4 特別枠の形態と検討事項の確認

事務局 (資料3を説明)

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。

野中副委員長 資料3について、資料2の各種教育ビジョンとも関連するが、特別枠の導入のベースになるのは、九段中等がやろうとしていること、すなわち「九段探究プラン」である。九段中等が掲げる「九段探究プラン」の達成のための特別枠にならないといけない。

大森委員長 九段探究プランにある「STEAM」「グローバル」「アントレプレナーシップ」がスパイラルに絡みあい、成長させていく概念が、ベースになると思う。
 次第5にうつりたい。

5 九段中等教育学校と千代田区が有する教育資源の確認

事務局 (資料4を説明)

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。

野中副委員長 資料4の、九段中等教育学校が有する教育資源について、これ以外で、最も大切な教育資源は人材だと思う。これから進めていく探究を考えると、どのような人材が活用できるのかを把握したい。九段中等の関係者のほか、地元千代田区の特徴を生かし活用できる人材のベータベースのものはあるか。特に若手の研究者について。

大森委員長 現時点では、手持ちの資料はない。今後、そのあたりの情報も蓄積できれば良い。

盛谷委員 大学等と連携する場合の窓口や担当者があると思うが、そのあたりを把握

しているか。

大森委員長 総務課では、大学等との連携に関する仕組みを検討しているので、その中で一定程度の情報については、ベースデータとして利用できるものを、今構築している。今後、そのあたりも活用していただければと思う。
次第6にうつりたい。

6 これまでの検討を踏まえた特別枠案について

事務局 (資料5を説明)

大森委員長 ご意見、ご質問はあるか。

九段探究プランをベースにすると、どの分野になるか。

野村委員 九段探究プランは、全ての分野に対して、生徒がどういうところを社会課題として捉えて、どう仮説を設定して、評価・検証していくのか。九段中等でこういう資源を持っているから、こういう人材を求めていくのか。それとも、千代田区教育委員会として、九段中等にはこういうことを求めるのだから、こういう人材を求めるというのか。そこを考えないといけない。なぜ特別枠を設けるのか。

大森委員長 今のところ、事務局では、九段中等の生徒像に向けて、このような特別枠で入れて、6年間育てる中で、それがメッセージ性やブランディングにつながると考えている。一方、特別枠がなくても、九段探究プランのカリキュラムの中で育つということなのか、学校としたら。

野村委員 本校には、グランドデザインがある。千代田区教育委員会から出されたものを伴っている。それをもとにした探究プランがある。特別枠を設けるとするのは、何らかの課題があるからだと思う。例えば、受検倍率が下がってきて九段中等を目指すことが少なくなることはマズイ、ここで何とか立て直すために、新たにこういう視点でやるべきではないか。そのために、千代田区や九段中等の教育資源を生かすという考え方もある。また、もっとメッセージ性を高めるという考え方もある。なぜ、特別枠を設けるのかを明確にしないと、ブレる可能性がある。特別枠を設けるための必要性をしっかりと考える必要がある。九段探究プランには「STEAM」「グローバル」「アントレプレナーシップ」の3本の柱がある。例えば、「アントレプレナーシップ」で言えば、校内起業家を育てる、そういうことに興味がある生徒を集める。そういったところを考えておく必要がある。我々としては、小学校の教育を大事にしてほしい。小学校の教育の延長線上に適正検査がある。私学はいくらでもできると思うが、例えば、マイクラフトの活用は公立では難しい。公立として考えるべき役割がある。

大森委員長 7年度に向けて、出願倍率は出ているのか。

野村委員 22日に発表する。公立全体は軒並み下がっている。私学の授業料無償化の影響が出ている。公立の良さは授業料の安さ。施設は私学の方が絶対に良

い。教育内容は、私立、公立でそれぞれある。

大森委員長

何のためにという目的をしっかりとしないといけない。当初は、私学の無償化で、倍率が落ちるかもしれない。九段中等の活力を維持するためには、魅力的な取組が必要だろうと。特別枠という仕組みがありつつも、学校が育てたい生徒像からスキームを組むことが始まりだと思う。来年度やるのかどうかも含めて、学校としてそこまでの問題がなければ、教育委員会としてもそこまでは良いのかなとも思う。危機感があり、どうしても九段中等の魅力を発信していくべきだ、ということもありえる。今日、結論を出すことはないが、そこをしっかりと組み立てる必要がある。

野中副委員長

千代田区は設置者として、どのような特別枠を設けて欲しいのか？もうひとつ明確でない。私は、特別枠を設定することには意味があると思う。現状は、東京都では公立の人気低下が加速している。授業料無償化の流れから今後も、私学の人気が上がっていくだろう。その公立の中で、中高一貫は、私立に負けないくらい頑張っているが、今後は、もっと特色を出し、何ができるのかセールスポイントをアピールしていく必要がある。そのための特別枠だと思う。だからこそ特別枠は、時代の流れを見据えて柔軟に考える必要がある。ただし、特別枠を実施する学校の負担は大きい。最終的には、千代田区が大所高所の立場から、将来的に九段中等をこうしたいという部分と、学校としてこうしたいということを具体的に折り合わせるのが、この委員会の目的だと思うが、その際には、学校側の思いや願いを尊重してほしい。また、特別枠の具体的な内容は柔軟に考えたい。例えば、九段中等の探究は、理系科目に限らず全生徒があらゆる分野で探究するところが大きな特徴であり、ならば、特別枠の募集もそれに合った形を考えていくべきだと思う。ただし、あまり急がない方がよい。ここで結論を出すのではなく、継続して考えていく必要があると思う。

大森委員長

これまでの議論を振り返って、他に言っておきたいことがあれば。

野村委員

今、教育内容的には、過渡期にある。新しい学習指導要領の内容も、来年度以降、ポロポロ出てくると思う。学校では、新しい学習指導要領に向けたカリキュラムの検討をしなければならない時期にあると思う。また、令和10年までは生徒が増えるが、それ以降は減少していく。その際に選ばれる学校にしていくことを見据えた、そこに先んじてやっていく必要がある。特別枠をやるのであれば、学校の体制も必要になる。人材や組織の補強もお願いしなければいけない。そこは時間がかかる。

大森委員長

どんな仕組みでも、学校側の負担は増えるので、しっかりと準備しないとなかなか難しいと思う。来年度も引き続き、特別枠の実現可能性について深掘していく予定だが、検討スケジュールや体制等の詳細については、固まり次第ご連絡したい。

7 閉会